



Introduction	はじめに	・・・2
Report 1	青森フォーラム	・・・3
Report 2	愛知フォーラム	・・・5
Report 3	香川フォーラム	・・・7
Report 4	大阪フォーラム	・・・9
Report 5	佐賀フォーラムその後	・・・11
Conclusion	おわりに	・・・12
Member	構成メンバー	・・・13

一般社団法人 全国若手福祉従事者ネットワーク

代表理事 河内崇典

私も全国若手福祉従事者ネットワーク（通称：若手ネット）のメンバーは、アメリティフォーラムに登壇し、「若すぎるから全く新しい実践報告」というテーマでシンポジウムを行ったことから始まりました。

予想をはるかに超える、反響と期待。想いに共感してくれた仲間と共に、若手福祉従事者の現状と今後の展望に関するアンケートを実施しました。892件の若手福祉従事者の想いには、十分なキャリアパスがなされないままに「サービス管理責任者」や「ユニットリーダー」等を任せられることがあり、不安を抱えながら業務に入っているという悩みが多くありました。しかし、それでもこの仕事を続けたいという意欲的な声もあり、その想いを無駄にしないために、まずは悩みや不安を解消できる仲間づくりを広げようと全国でフォーラムを開催する運びとなりました。

今年度は、青森、愛知、香川、大阪の4か所で開催しました。多くの若手が語り合い、多くの悩みを共感し、「明日も一緒に頑張ろう」と英気を養ってそれぞれの現場に戻っていきました。「仲間がいる」そう思うだけで真剣に利用者さんと向き合う事が出来、チャレンジも出来る。また悩みを抱えたときには今回出会った仲間と共に共感し解決する為に話し合う。それこそが本当の意味のネットワークであると思います。

## 「つながりのはじまり」です。

この「つながり」はやがて大きな燈火となり、現場で頑張る若手福祉従事者の人脈という宝物として掛け替えのないものとなります。その燈火が次なる運動体として働き続ける様に今後も活動していきます。

最後に、今回のネットワークフォーラムに講師としてご尽力頂いた皆様、関係者の皆様には心から厚く御礼申し上げます。

そして、福祉現場で頑張る、若手従事者の明るい豊かな未来を創る為に、全力でご支援を頂いた日本財団の皆様にも厚く御礼申し上げます。

### 青森フォーラム



- 開催日：2012年12月1日
- 開催場所：青森県観光物産館 アスパム 4F『十和田』  
(青森県青森市安方一丁目1番40号)

- 12:35~13:50 基調講演  
「これからの福祉従事者に送るメッセージ」～日本の障がい福祉の歴史から、未来へ～  
講師：田中 正博 氏 (全日本手をつなぐ育成会常務理事)
- 14:00~15:20 シンポジウム①「まちづくりと福祉実践」  
シンポジスト：根本 あやこ 氏 特定非営利活動法人 SANNet 青森  
中村 早苗 氏 特定非営利活動法人 どんぐりの家  
小田 泰久 氏 特定非営利活動法人 楽笑  
コーディネーター：大原 裕介 氏 特定非営利活動法人 全国地域生活支援ネットワーク
- 15:30~16:40 シンポジウム②「若手が語るこれからの福祉」  
シンポジスト：中野 正樹 氏 社会福祉法人 青森県すこやか福祉事業団  
河原木 俊幸 氏 社会福祉法人 俊公会  
下山 貴容子 氏 特定非営利活動法人あーど  
コーディネーター：加藤 恵 氏 半田市障がい者相談支援センター
- 18:00~ 懇親会『仲間達と福祉の未来を語っちゃおう in 青森』

● 参加者総数=57名

● 参加者性別



● 参加者所属

障害者支援施設=9名

児童デイサービス=11名

その他障害福祉事業所=37名

基調講演に田中正博氏をお招きし、今まで障害児者の地域生活支援を先導してきた経緯や想いについてお話いただきました。今となっては当たり前のようにある地域生活支援のためのサービスが、どういった経緯でつくられてきたのかという歴史を知ることができました。また、レスパイトサービスなどの私的サービスを先駆的に開発してきた田中氏のお話を聞いて、あらためて福祉の理念の大切さを確認することができました。「サービスがないから我慢してもらえない」というあきらめの発想ではなく、「どういったサービスがあれば豊かな地域生活がおくれるか」というように、当事者の方のニーズにどこまでも向き合う姿勢が必要だと感じました。

シンポジウム①では、青森でさまざまな工夫をしながら小さいながらも地域生活を支えてきた事業所の方々に実践発表をしていただきました。福祉事業所内だけではなく地域の住民を巻き込んだ福祉実践など、とても有意義な実践をしながらもなかなか表に出て発表をする機会がないということもあり、あらためてネットワークの必要性を感じました。

シンポジウム②では、若手の福祉従事者に登壇していただき、現場で困っていることや頑張っていることについてお話しいただきました。キャリアが不十分の中で重要なポジションを任されることの不安や、そのバックアップ体制の不十分さが明らかとなり、今後研修やメンターなどの仕組みを充実させていくことが必要になると感じました。

県内ではまだまだ施設入所が多く、地域生活の受け皿となるサービスが十分ではありません。今回のフォーラムを通じて、地域生活支援に熱い想いを抱いている福祉従事者をネットワーク化し、さらなる専門性アップを図っていくことで、障害のある方の生活が豊かになっていくのではないかと考えています。



### 今後の取り組みの予定

今回のフォーラムを受けて、青森に地域生活支援を理念とするネットワーク団体（任意団体）を設立する予定で、現在中核となる人たちが協議を行っています。方向性としては、継続したフォーラムの開催や、各種セミナーの開催等を考えています。

### 事務局事業所



特定非営利活動法人あーど

住 所 青森県五所川原市若葉3-4-3

代表者名 大橋 一之

## 愛知フォーラム



■ 開催日：2012年12月15日  
 ■ 開催場所：名古屋会議室  
 プライムセントラルタワー名古屋駅前店  
 (愛知県名古屋市西区名駅2-27-8 13F)

- 13:05~14:05 基調講演  
 「若手福祉従事者に望むもの、若手福祉従事者に伝えたいこと」  
 ~地域で暮らし続けていくために、必要なものは作る 地域福祉の開拓の歴史~  
 講師：山田 優 氏 (福島県被災地における障害福祉サービス基盤整備事業  
 アドバイザー派遣事業事務局 総括コーディネーター)
- 14:15~15:30 シンポジウム①「地域での暮らしを支える実践」(無いものは創る！)  
 シンポジスト：渡辺 竜夫 氏 社会福祉法人新城福祉会  
 東三河北部障害者就業・生活支援センター ウィル  
 木本 光宣 氏 特定非営利活動法人 ユートピア若宮  
 大橋 一之 氏 特定非営利活動法人 あーど  
 コーディネーター：小田 泰久 氏 特定非営利活動法人 楽笑
- 15:40~16:40 シンポジウム②「若手が語るこれからの福祉」  
 シンポジスト：杉田 泉樹 氏 社会福祉法人愛光園 障がい者活動センター愛光園  
 小嶋 康世 氏 NPO法人楽笑 地域生活支援センターらくしゅう  
 コーディネーター：加藤 恵 氏 半田市障がい者相談支援センター  
 アドバイザー：山田 優 氏
- 18:00~ 懇親会『仲間達と福祉の未来を語っちゃおう in 愛知』

● 参加者総数=63名

● 参加者性別



### 事務局事業所



特定非営利活動法人 楽笑  
 住 所 愛知県蒲郡市三谷町魚町通 12-1  
 代表者名 小田 泰久

基調講演では、愛知県で障がいのある方が地域で暮らし続ける為に、先駆的に仕組みを作り上げた実践を持つ、山田優氏に支援者としての心構え、あるべき姿等を中心にご講演をいただきました。地域福祉のルーツである、糸賀一雄さんの福祉の思想に始まり、田村一二さんの障がいのある方の存在価値を考える深める事、池田太郎さんのグループホームの基礎となった民間下宿の話を若い世代にしっかりと伝える事で、地域福祉の歴史を知らない若手職員に「今」を考えるきっかけを頂きました。また、地域支援とは何かという基本的な視点から、本人主体=傾聴の重要性、忙しいを言い訳に本人のメッセージをスルーしていないか等、現場職員として気づかされる内容となりました。

シンポジウム①では、必要なサービスや支援、仕組みに気づき自ら行動を起こした30代中盤の方にそのきっかけや動機、それまでの苦勞をお話しいただきました。過疎地で企業もない中、障がい者就労の必要性和可能性を感じ、行政を巻き込み、就業・生活支援センターを立ち上げた話や、障がい理解、啓発を当事者が担う部分を永続的に行動できるように当事者の人材育成とネットワークの構築を行っている話、そして入所施設の支援に疑問を感じ、本人に必要な支援を正しく提供する為に自ら事業所を立ち上げた話を中心にシンポジウムを進めました。支援費制度、自立支援法とサービスが確立されているからこそサービスに利用者を当てはめようとしてしまいます。そうではなく、本人が望むことに寄り添い、サービスとしてなければ自らが作り出すという本来の本人支援に立ち返る事が出来ました。

シンポジウム②では、福祉現場3年目と1年目の福祉従事者の方に、現在の仕事内容や悩み、今後の想いなど語っていただきました。1年目から現場を任せられ、人間関係に悩む事や知識が管理者として追いついていないなど、アンケート調査と同様の問題について話し合われました。それでも、障がいのある方と寄り添いながら頑張っていきたいと前向きな言葉もみられました。また、アドバイザーとして登壇頂いた、山田優氏からも温かい励ましとアドバイスを頂き、現場で悩みや不安を抱える方々に対し、希望が持てるシンポジウムになりました。



### 今後の取り組みの予定

シンポジウム終了後、参加して頂いた方々と現場で感じた困りごと等の情報交換が始まっております。今後、ネットワークを広げていき、愛知県内に若手福祉従事者がそれぞれの悩みを共有でき研修が自ら出来るように継続的に集まっていきたいと思っております。

### 香川フォーラム



- 開催日：2013年1月26日
- 開催場所：丸亀オークラホテル  
(香川県丸亀市富士見町三丁目3番50号)

- 13:15~14:15 基調講演  
「若手福祉従事者に望むもの、若手福祉従事者に伝えたいこと」～親の想い、利用者の想い～  
講師：副島 宏克氏（社会福祉法人若葉 常務理事 兼 総合施設長）
- 14:15~15:30 シンポジウム①「中国・四国の福祉の未来を語り合う」  
シンポジスト：大橋 一之氏 特定非営利活動法人 あーど  
大丸 和利氏 NPO 法人 家族支援フォーラム夢ポケット 地域生活支援センター  
深山 隆彦氏 NPO 法人 子育てネットくすくすまいる  
倉本 誠一郎氏 株式会社 あい介護サービス  
コーディネーター：福島 龍三郎氏 特定非営利活動法人 ライフサポートはる
- 15:30~16:40 シンポジウム②「現場の支援者の気持ち」  
シンポジスト：脇 麻奈美氏 株式会社ミンク 児童デイサービス  
七條 正幸氏 あじの里 地域生活支援 放課後等デイサービス  
コーディネーター：河内 崇典氏 特定非営利活動法人 み・らいず  
小田 泰久氏 特定非営利活動法人 楽笑
- 18:00~ 懇親会 『仲間達と福祉の未来を語っちゃおう in 香川』

● 参加者総数=101名

● 参加者性別

47

54

基調講演においては、副島氏の、親としての目線も踏まえて、「安心して暮らせる地域づくり」における実践や経験談を聞く事ができました。地道な地域づくりの活動には、今の自立支援法や親の会などの制度や社会的理解が伴うわけでもなく、本当に先駆的に取り組んで来られた挑戦と丁寧に積み上げられてきた活動に裏打ちされていると痛感しました。特別な人達の福祉ではなく、一人の人間としてまた普通の国民の福祉として障害福祉を受け入れられていることを確認しながら、この仕事を進めていく尊さを感じた講演でした。

シンポジウム①においての若手の管理者・代表など経験年数を積んでいる方からの発信は、参加者にも大きな刺激となったと思います。各事業所での取り組みや抱える課題に何度も会場が頷く場面が印象的でした。離職率の高さにストップをかけ、組織体制や職場環境の整備をイチ事業所だけの課題でなく横のつながりを持ち業界全体で取り組む姿勢が必要だと感じました。

シンポジウム②では現場での支援内容にようやく慣れてはきたものの、福祉分野の専門性の広さと奥の深さに戸惑いを感じている登壇者が印象的でした。必要な知識や求められる専門性の勉強も独学では限りがあり、こちらでもやはり仲間を見つけての情報交換や、現場におけるOJTなどの仕組み作りが必要であると感じました。

参加者の傾向として介護福祉従事者が6割、地元企業（異業種）の参加者が4割でした。懇親会においてもこの比率は変わらず、社会福祉における課題に関心を持ってきている事がわかりました。

地域との交流で新たに発見されるヒントを得て、福祉業界の事を知ってもらう機会としては大変よかったと思います。



### 今後の取り組みの予定

すでに5月にフォーラムが開催する事を決定しており、19名の実行委員が決まっています。障害福祉分野に留まらず高齢者介護の事業所、その他異業種から構成されるメンバーで企画するのは、「香川県民100人で考える福祉目線の街づくり」です。ゲストファシリテーターを招いての内容で、これを機会にさらなる地域への情報発信や啓発につなげていきたいです。

### 事務局事業所



株式会社 ミンク  
住 所 香川県綾歌郡宇多津町浜6番丁89-2  
代表者名 本西 志保

## 大阪フォーラム



- 開催日：2013年3月2日
- 開催場所：大阪市立大学 文化交流センター ホール  
(大阪市北区梅田 1-2-2-600  
大阪駅前第2ビル6階)

- 11:10~12:00 基調講演  
「若手へのメッセージ」  
講師：玉木 幸則氏 (西宮市障がい者地域生活相談支援センターピアサポート・西宮)  
進行：栞谷 礼路氏 (特定非営利活動法人 み・らいず)  
応答者：全国若手福祉従事者ネットワーク (小田、大橋、福島)
- 13:00~14:20 シンポジウム①「福祉と医療と教育と。今、福祉に必要なもの。」  
シンポジスト：辻 薫氏 大阪府作業療法士会理事  
向後 礼子氏 近畿大学教職教育部准教授  
加藤 恵氏 半田市障がい者相談支援センター  
コーディネーター：野田 満由美氏 特定非営利活動法人 み・らいず
- 14:30~16:40 シンポジウム②「若手が創る。これからの地域福祉。」  
シンポジスト：高 亜希氏 NPO 法人ノーベル  
奥野 慧氏 一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン  
今井 紀明氏 NPO 法人 D×P  
西川 亮氏 NPO 法人 Co.to.hana  
渡 剛氏 NPO 法人 あつとすくー  
コーディネーター：河内 崇典 特定非営利活動法人 み・らいず
- 17:30~ 懇親会「大阪の夜景を見ながら、関西の地域福祉を語る」

● 参加者総数=61名

● 参加者性別



## 事務局事業所



み・らいず

特定非営利活動法人 み・らいず  
住 所 大阪市住之江区南加賀屋 4-4-19  
代表者名 河内 崇典

基調講演では、玉木幸則氏から、笑いあり、熱さあり、参加者を飽きさせない、引き込まれていくお話をいただきました。前半は、若手にメッセージとして、ベテランの人が言うことを「はい」と聞くだけでなく、自分たちの価値観を発言していくことの大切さや、「何のため」を明確にしていくことの大切さをお話いただきました。後半は、若手ネットのメンバーに問いかける形で、それぞれがこの仕事を始めたきっかけを引き出し、葛藤などを振り返ることから今とこれからを考える内容でした。非常に短時間の中、コーディネーターとしてもまとめていただきました。「もっと聞きたい」という感想が多くある基調講演となりました。

シンポジウム①では、まずシンポジストお一人ずつ、自己紹介も兼ねて現在のフィールドにおける関心事や活動内容をお話いただきました。辻先生からは、「地域で暮らす」ということに焦点を当てた医療の視点からのお話をいただきました。「地域包括ケア」の実現に向けて、相談支援体制の必要性を提起されました。向後先生からは、「はたらく」をテーマとして取り上げ、次世代を育てる中でも、専門職としてだけでなく、人として、社会として、支援を必要とする人のかかわりの必要性をお話いただきました。加藤氏からは、具体的な相談支援の現場の事例やノウハウの中から、連携についての具体的な考え方についてお話いただきました。シンポジスト同士での議論を経て、やはり地域における活動を行う中で、福祉と医療と教育との連携について、議論を重ねていく必要があるのではないかとまとめられました。

シンポジウム②は、今回のフォーラムの特徴的な企画でした。Ustream 配信と twitter を利用したディスカッションも取り入れられました。

まず、各シンポジストから活動の概要についてお話しいただき、きっかけや実際の団体運営のお話などをしていただきました。

今回のシンポジストの皆さんが「地域福祉」というテーマでお話しすることは非常に珍しいのではないかなと思います。後半では、「地域福祉」をテーマにしながらも、どのシンポジストも自分自身や目の前にいる一人一人を大事にする中で制度や社会システムの隙間にある社会課題をいかに解決していくのかという点で、議論が重ねられました。

参加者の皆さんからは、いわゆる「福祉」のフォーラムではなかなか聞けないお話を聞ける中で、少し普段の業務を俯瞰できる内容でよかったという感想が多く寄せられました。

本フォーラムは、シンポジストやスタッフを含む、約70名の参加の下、夜景の綺麗な高層ビルの会場で行われました。

普段の仲間と話をするにも、初めて会った方々とお話をするにも、いつもとは少し違った内容が多く聞かれました。参加者皆さんが笑顔で、名刺交換やお互いの活動についての議論も活発に行われており、今後の関西におけるネットワーク形成の素になる場になったのではないのでしょうか。

大阪のみならず、関西の各地で開催したいという声が多くありました。

今回のようなさまざまな分野において活動している方々も交えることで、若手福祉従事者の将来に対する期待も高まっていくのではないかと考えて、各地での企画が早速進んでいるようです。



## 今後の取り組みの予定

## 「フォローアップ研修」

全国若手福祉従事者ネットワークとして初めて開催したフォーラムが、平成24年3月に佐賀県鳥栖市で開催した「佐賀フォーラム」でした。

佐賀フォーラムの内容も非常に充実したものでしたが、その時の参加者の中から、もっと勉強したい、繋がっていききたいという有志が集まり、平成24年6月30日に同じく佐賀県鳥栖市でフォローアップ研修会を開催しました。

研修会には佐賀県、福岡県、熊本県より経営者・管理者クラスの16名が参加し、長崎国際大学の先生よりこれからの福祉の在り方について全国の取り組みを基にご講演いただき、地元の経営コンサルタントの方より福祉事業所の経営の在り方についてレクチャーしていただきました。

フォローアップ研修によりお互いの結びつきがさらに深まり、九州のネットワークが芽生えました。

研修会の後に、さっそく同じ作業種を行っている事業所同士の交流もおこなわれたようです。

夜は懇親会を開催し、いろいろな話で研修会以上に盛り上がりました。



## 今後の取り組みの予定

これから九州版ネットワークを九州全県に広げて、平成25年12月7日（土）～8日（日）（日程は予定）に佐賀県鳥栖市において「佐賀フォーラム」を拡大した「九州ネットワークフォーラム」を開催する予定です。

今後とも、このつながりを身近な九州版ネットワークとして九州ならではの活動を続けていきたいと考えています。

今年度、若手福祉従事者ネットワークフォーラムを、全国で計4回開催しました。

## ①思いの共有

「自分以外にも同じような悩みを抱えながらも日々の業務にがんばっている仲間がいる」

## ②未来の自分

「少し先にこの仕事を始めた先輩は新たな課題に取り組み生き生きしている」

## ③この仕事の本質

「先人たちはどのような思いで今の仕事を見つめ取り組んできたのかを知る」

・・・を知ってもらい、改めて私たちがしている仕事の意味や楽しさを味わっていただき、日々の仕事に戻ってもらえるプログラムにしました。

各フォーラムではそれぞれの地域の特徴が表れていました。それぞれの地域の福祉の特性や歴史によって参加者層や課題が違うことが見えてきました。一方で、他地域の若手従事者の先駆的実践を聞くことで、自分の地域でもあの実践はできるかもしれない、あの視点は活かそうだという意見もいただきました。また、本フォーラムをきっかけとしてその地域のネットワークが生まれ始め、その後も研修会や交流会を実施する地域が出たり、フォーラムの出会いから見学ツアーの実施が計画されたりなど、発展している地域も出てきています。フォーラムがその場だけの交流や学習に終わることなく、次に繋がっていることがこのフォーラムの特徴かもしれません。

来年度、若手福祉従事者ネットワークフォーラムでは、地域福祉の新しいネットワークを築き・深め・繋げるため、3つの軸で活動していきます。

- ①未開催の地域でのフォーラムを開催し、新たな地域での情報提供と仲間がしを行います。
- ②今までの実施地域では今回の出会いを大切に各地域でのネットワークを深めつつ、新たな仲間の輪を広げていきます。
- ③それぞれの地域の活きた事例を持ち寄って、新たな発想が生まれるような全国的な研修・ネットワークの構築をしていきます。

全国的な福祉のネットワークができることを目指して、若手ネットは今後も活動し続けます。

## 事務局事業所



特定非営利活動法人 ライフサポートはる  
住 所 佐賀県佐賀市開成5丁目5-8  
代表者名 福島 龍三郎

構成メンバー

【代表理事】河内 崇典

(特定非営利活動法人み・らいず  
代表理事)



【理事】福島 龍三郎

(特定非営利活動法人ライフサポ  
トハル 理事長)



【理事】本西 志保

(株式会社ミンク 代表取締役)



【理事】大橋 一之

(特定非営利活動法人あーんど 理  
事長)



【理事】小田 泰久

(特定非営利活動法人楽笑 理事  
長)



【理事】加藤 恵

(半田市障がい者相談支援センター  
センター長)



「つながりのはじまり」

名称	一般社団法人 全国若手福祉従事者ネットワーク
代表	河内 崇典
所在地	〒105-0012 東京都港区芝大門2-7-1 ハイリーフ芝大門103号室
設立	2012年11月
Email	office@wakamononet.org
WEB SITE	http://www.wakamononet.org/
Facebook	http://www.facebook.com/wakatenet